特15
140

019773−000−5

特15−140

豊川円福山妙厳寺鎮守吒枳尼真天略縁起

鳥居　法城／著

M34. 5

ABG−0586

豐川圓福山妙嚴寺鎮守吒枳尼眞天畧緣起

開創緣起

三州豐川妙嚴寺は人皇百壹代後花園天皇嘉吉元年僧義易の創建にして禪曹洞宗に属す寺域四千四百五拾七坪佛堂皆輪奐の美あるのみならす其庭園の幽雅なるは最も世に著はるゝ所にして假山泉池の安排樹石の點綴盡く巧妙を極めさるなく觀る人概ね其規摸の廣大なるに驚かさるはなし猶吒枳尼眞天の堂宇の如き莊嚴華麗を盡し結搆總へて神社に擬す世俗概ね稻荷の名を以て之を呼ふと雖も安置する所の佛像は眞天にして稻荷の本躰にあらすと云然れ共之を豐川稻

荷と稱し四方の賽人日夜絶ゆることなし豐橋町を二へ大約三里許滝車十五分時にして豐川町に着するとを得現今殿堂并諸建物左に

大門、樓門、通用門、本堂、開山堂、
吒枳尼天、奥院、籠堂、禪堂、額堂、
庚申堂、秋葉堂、大黑天、愛染堂、万燈、
札所、鐘楼、座敷、玄關、廣間、
立願所、茶所、庫裡、書院、方丈、
新方丈、寶庫、浴室、春屋、

此他著名の寶物重器數百種之を畧す

東海派門葉　花井寺　春興院　日光寺　幸周寺
金西寺　光岳寺　長興寺　常安寺

吒枳尼眞天略縁起

凡そ聖者賢人の世に出て人を救ひ給ふや必す天神地祇の之に附隨して其道を護り其業を助くるものゝ乃ち釋迦牟尼佛の出世し給ふや梵天帝釋四大天王等の衛護をこそかなりしは更にも言はす我國に在りても山王權現の傳敎大師に於ける稲荷明神の弘法大師に於ける白山權現の承陽大師に於ける等皆然らさるは無し茲に圓福山妙嚴寺に鎮坐し給ふ吒枳尼眞天の來由を原ぬるに人皇八十四代順德天皇の皇子出家したまひて承陽大師の正脈を嗣かせ給へる寒岩義尹禪師は寛元年間支那國に渡航し玉ひ彼地天童山に登て如淨禪師に謁し要脈を傳へられて已に飯朝の船に乘らせ給ひしに忽ち靈神あり白狐に跨りて聲朗らかに唵尸羅婆陀尼黎吽婆婆

訶と唱へ且つ謂て曰く吾は是れ吒枳尼天なり今より將に師の法を護するに此神呪を以てし又師の教化に服する者を守りて安穏快樂ならしめん必す疑ふこと勿れと言ひ畢りて見へす乃ち禪師飯朝の後手つから其感見する所の形像を刻み て以て護法の善神となし常に其徒に教へて彼の神呪を唱念せしめられたり其後禪師の法子法孫たる鐵山東洲梅巖華藏の四師嫡々相承して妙嚴寺開山東海義易和尚に至る和尚嘉吉元年を以て豐川に寺を開創するに當り別に祠壇を寺中に築きて彼の禪師手刻の吒枳尼尊像を安置し以て有縁の道俗をして隨意に禮拜祈願することを得せしむ是に於て四方篤信の貴賤男女競ひ來りて靈驗を蒙る者益々多し就中織田信長豐臣秀吉德川家康諸公の如き今川義元九鬼嘉隆山本晴幸

本多忠勝大岡忠相諸氏の如き皆其靈威を馮みて祈誓する所あり殊に文祿年間豐大閤の朝鮮を伐つに當り水軍の驍將九鬼大隅守をして多く軍艦を造らしむるや嘉隆一夕靈夢を感し妙嚴寺九世の祖天室伊堯和尚を請して教化を受けたるを以て其軍艦中の尤も壯宏たる者を名けて伊堯丸と曰ひ艦中に吒枳尼尊像を拜請し大般若經六百卷を奉載し般若理趣法を行ひ怨敵退散降伏一切大魔最勝成就の祈禱を修して吒枳尼尊天の寶符を製し之を征韓各軍隊軍屬に頒布し各自の鎧中に納めしめしに戰陣中その靈驗の赫々たること實に枚擧に遑あらさりしと役終りて其艦を嘉隆に賜はり明治の初年に至るまて之を志摩の鳥羽港に保存せられたり又慶長五年東照公の關ヶ原陣に趣くや伊堯禪師をして其戰勝を眞天に

祈らしめ後に寺祿四十石を寄附して之に報賽せられたり又大岡越前守忠相か幕布の奉行として能く屢々疑獄明斷して良臣の名譽ある常に萬牛和尚に請て眞天の冥助を祈りて遂に尊像を邸内に安置して敬信怠たらさりしと斯の如き信仰の篤きにや德川八代將軍吉宗公享保年間に彼の天一坊の疑獄在て名奉行の越前守大に其裁判に苦しを既に割腹と迄覺悟せしか日々怠らす水垢離を取て吒枳尼天を祈念せられしに靈驗立處に顯れ其加被力によりて天一坊主從の輩悉く罪に服し處斷せらる後其功を以て三河西大平に於て一万石を賜はりて諸侯の列に加へられたり是れ偏に豐川眞天の冥護なりとて永井郁次郎を代參せしめたりと云現今東京赤坂表町に奉祀せしい即ち大岡か邸内に拜請せし眞天なり猶又西

尾藩主松平伊豆守領内幡豆郡壹郷村に伏見稻荷の分靈あり一村の氏神として崇信す然る處藩主伊豆守老中職に任せられ在府中代官某領内政事に係る大切なる要務を信書に認め使を以て之を伊豆の守へ進達せし處とつ差の間下書と心ろ付す送達せしを翌朝に至り始めて之を知り大に驚き壹郷の稻荷に詣て祈念せられたるに果せるかな其夜靈夢を得たり稻荷告て曰く汝か丹誠を見屆願事は必す成就致さすなれとも吾か力らに及はさるに依り吾れ豐川吒枳尼天を頼と汝か願は滿足さすへきなれは信書を吾か祠へ入れ置くへしと告を蒙ると夢さめたり代官喜悅の餘り直ちに稻荷の祠へ信書を納め使の安否を待ち居りしに十日程過きて還り來れり代官使をいたはり旅中に於て別條なきやを問はれしに使の云く

實に不思議なる事函根の嶺に於て之れありと其事實を述べて云ひけらく卯の刻頃一陣の烈風吹來ると思ふ間に大切なる狀函を空中に卷揚げ何處ともなく搖去らはれ大に驚き此處彼處と探せしかは狀箱の蓋披きわりたるも御用の信書は其儘あり依て元の如く封して伊豆の守へ恙なく納めしと其顛末を申訴へたり代官ろれを聞きさては稻荷明神の通力豐川眞天の靈威愈々明なるとを畏敬せられしと云ひ傳へり又幕府目付役某日頃豐川眞天を敬信し常に冥護を仰きしか或時幕府の公用にて筑紫へ下向の折かられもはすも猛風にはかにれてけて海船を扇たつることと箕を簸るかことく急なりかゝりし時常に念する眞天の神呪を唱へつゝ祈念せられたれは夜半ばかりのころなりしに舟人の目に奇異の事を見けり眞

天の眷屬と覺へたりし人四人甲冑を着て舳さきにも艫にもきびしく立るありさまを見たりこの靈驗にや破損の難にもあはす無事に筑紫に着船せりと是等の靈驗數ふへからさる事は古來傳へて疑なき處なり又豐川靈夢記に曰く某年頃信仰せる吒枳尼眞天へ祈誓の爲め或夜參籠せし時一條の光線天より射よと見へしか空中聲あり忽ち一朶の紫雲垂れ來る某便ち首を揚れは天使なり雲背に立つ束帶の淨らかなる威儀の嚴かなる共に人間の見る處にあらす即ち命を傳へて曰く吒枳尼眞天特旨を以て卿を召す只吾等に隨ひて來れよと某恭しく命を拜すれは天使二人某を具して九天に向ふてと順風に帆を颯けて江河を下るか如く其痛快なると喩ふるに物なし伏羲氏か雲車に乘り應龍に駕し鬼神を導きて九天に

登り帝の靈門に朝せし時の境界は斯くや有りけむと驚くはかりなり乃ち眼を放ちて四方を見渡せは麗かなる天津日は六合に照り透り融かなる天津風は遠近に吹き和し遠山の黛は遙に瑞雲のあなたに媚ひ花の香の霞める林に仙禽の歌ひ樂む風情綠の草の濃かなる岡に神獸の跳り遊ふ有樣なと其目出たきと復た人間の有る所に非す某餘りの不思議さに倘神に問て曰く此れ何れの處ろ天使答て曰く此れは是れ眞天の禁苑なり只吾等に隨ひ來よと即ち隨ひ行はとにろと〳〵と吹き來る風は林を透き樹を徹りて花の香十方に充滿しら〳〵と霞む日かけは山を照らし水を蒸して祥靄八面に棚引き渡れり其間より巍然たる玉の甍の層々と見へ隱れて雲に入り霞に續く有樣は是なむ眞天の宮殿なるへし彩雲の之

を罩め芳樹の之を護り風華の互に映し意境の漸く改まり行くも實に故あることにころ肅々と脚を運ふまに〳〵はや宮門にろ着きにける宮門に入れは宮殿の威儀美はしくし嚴かなる飾り清らかに前に見る所に百倍したり是れなん此の境域内の主神なると疑なく伺ひ知られは瑞雲の袖席に敷かれて明月の冠おのつから低れたり使神色を和らけて宜はく神敕ありて遙々卿を召す九霄の路定めて其の遠きに疲れん併し此の天上の春は彼の人間の春に孰れろやと某謹て對て曰く賤人固より烟霞の癖あり是は春毎に花に憧れて下界の芳菲に逍遙すされと奈何せん下界の花は左なきたに移り易きを無情の風雨其の艶を妬みて年とし惱まさいるは無し之を如何にろ此の天上の和日芳を養ひ惠風翠を育し彩雲

祥靄共に情を盡して海の如きの春色を涵養したるの目度たきに若かむや賤人か烟靄の癖升りて昊天に聞へしにや召して天上の春を賞せしめ給ふ天恩優渥何の賜物か之に若かむと申上けれは使神笑を含みて宣く風流なる哉卿や眞天の卿を召さゝらるゝは天上の春を賞せしめむとにいあらす卿は夙に眞心を尽し一片の丹心聊か可憐の處あり是を以て眞天卿を召して其の情を尽さしめ給ふ卿其れ之を了して速かに眞天に朝せよとやかて禁門にろ至りける使神の後に隨ひつゝ進みて眞天の宮殿に詣る宮殿は悉皆珠玉を以て成る其の美麗清淨なること又前に萬倍す不思議の光ありて殿内より流れ出て殿外八方に透き徹りて其の明らかなること白晝の比にあらす人の肺肝より骨髄まて皆照り徹されて而も眩ゆ

からさるのみならす肺肝は之を待ちて清淨に骨髄は之に依りて潤澤す玉座は高くして東に向へり錦張懸り珠簾垂る微妙の和氣ありて簾内より洩れ出て殿裏の百物を薫し籠めて其の温かなること温泉の比にあらす人の五根より丹田まて深く透き入りて而も而も濕はさるのみならす五根は之を待ちて明妙に丹田は之に依りて豊富なり面のあたり斯かる奇特に接しては爭てか渴仰の情興らさらむ五体坐に投して復た仰き見ること能はす一身唯恭敬の誠を以て滿さるゝのみ此時吒枳尼眞天如意寶珠の玉と受け給ふを謹て拜受し感涙に咽ひあへる某を使神に命して下土に送り還し給ふ是時眼に天花の亂墜するを見耳に天樂の合奏するを聞くのみ斯くて使神に長空に伴はれ降りて脚大地に着くと同時に春宵一塲

い覺めにけり覺め來りて首を翹れは奥の院なる吒枳尼眞天の寶前にてありにさと某此靈夢を感得し大に慶喜し生涯眞天の冥護を仰きしと之れ福智圓滿如意寶珠の本躰に在します豈に雷無量の福壽を與へ能く商業を榮へしめ五穀を豊にし盗賊の難風水の災を救ひ疫病を除き給ふのみならんや專ら訴訟に利を與へ軍陣には億萬の眷屬を誘ひて先鋒となり勝利を得せしめ息災延命武運長久等の利益を與へ給ふ是に於て眞天の曾て禪師に誓ひたるの言果して虚しからず今や其驗愈々明にして其愈々法隆ならんとす抑眞天の唱へ給ふ神呪たる唵尸羅婆陀尼黎吽婆訶といへることの實に能く曹洞の宗義を詮顯して餘蘊なきは皈傳相承の義に係るを以て今此に之を明示することを能はすと雖も仰て之を尊信し勉めて之を唱念する者は知らす識らす滅罪入位利生報息の正信に契ふこと復た疑を容るへき無し豈に雷現世安穩の靈驗のみならんや

豊川妙嚴禪寺記

三之妙嚴禪寺號山曰圓福老松古槍陰森接翠清徽其可觀矣渥美之郡界在豊川河碧水溶々焉葢豊川之稱其斯之謂歟師祖寒岩禪師之高弟東海義易和尚開創之地也本殿安吒枳尼眞天駕白狐寒岩師將發支那國皈日本感得降天靈神船中乃手所刻一下刀三稽首久之後成威靈殊絶植福無量疾癘禱禳響應坊舍次第皆輪奐踰四百五十之星霜矣彌久彌昌近來冒豊川稲荷之名、貴賤入山綿々不斷予偶過遊于此靈蹤幽奇猶勝所聞今院代某

如斯且做讃曰

三州北極　有名道場　稱妙嚴寺　地卜豐川　義貞所開
垂四百霜　清和所掬　列數有坊　吒枳尼天　威德無邊
維靈赫々　其像堂々　權化形體　可敬可尊　茲悲面相
能端能莊　降伏魔外　擁護今尙　拔苦與樂　福壽無量
五穀豐饒　澤及邊疆　東海檀林　人自諸方　神德日布
靈跡增彰　誰不皈仰　我故讃揚　圓福山古　天長地久

明治三十三稔五月　碩堂散史記

明治三十四年五月廿日印刷
仝年仝月廿一日出版

著述者　鳥居法城　靜岡縣濱名郡濱松町紺屋八十七番地
發行兼印刷者　內田友治　靜岡縣濱名郡濱松町連尺三十三番地

發行所　郁文舍書店　靜岡縣濱名郡濱松町連尺八十四番地
印刷所　郁文舍　靜岡縣濱名郡濱松町連尺三十三番地